



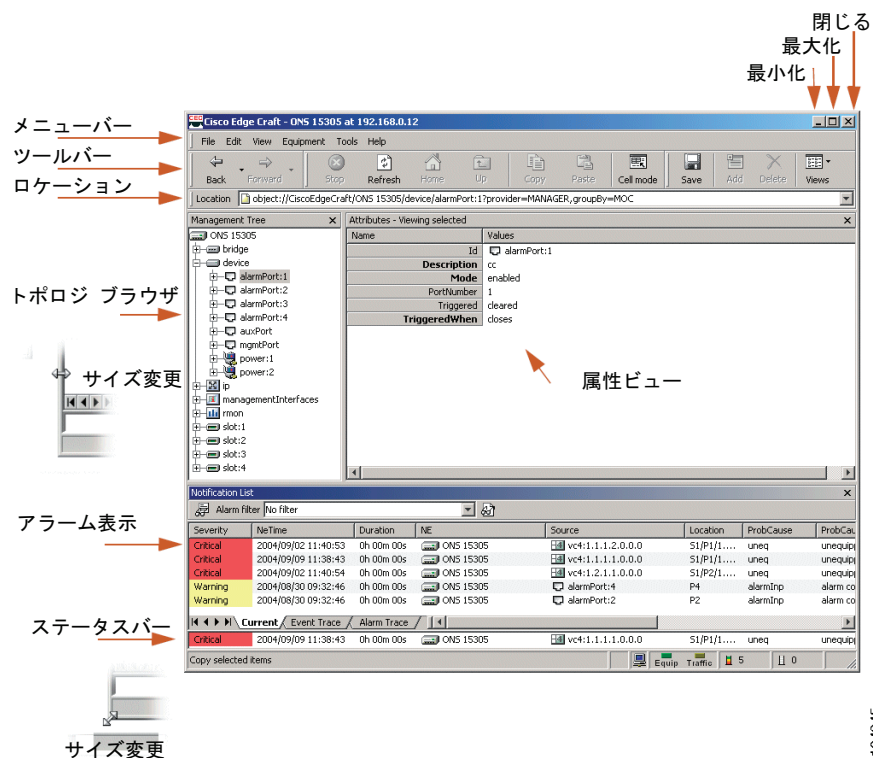
Cisco Edge Craft の使用

この章では、Cisco Edge Craft ソフトウェアの使用方法について説明します。また、デスクトップでのナビゲート方法と、管理ツリー、属性ビュー、およびアラーム ビューの使用方法についても説明します。

3.1 Cisco Edge Craft デスクトップ

Cisco Edge Craft のグラフィカル ユーザ インタフェイスは Cisco GUI フレームワークに基づいて構築されており、ネットワーク要素の管理ツリー、属性、およびアラーム リストを表示できるように事前にカスタマイズされて配布されます。アラーム リストには、Cisco Edge Craft がネットワーク要素に接続されている間に発生したすべてのアラーム、イベント、および通知が表示されます。図 3-1 に、Cisco Edge Craft デスクトップの概要を、簡単な機能説明を添えて示します。ツールバーのボタンまたはメニュー項目を選択すると、ステータス バーにその説明が表示されます。

図 3-1 Cisco Edge Craft デスクトップの概要



124845

3.1 Cisco Edge Craft デスクトップ

3.1.1 ツールバーのボタン

次の表に、Cisco Edge Craft で使用するアイコンの機能を示します。

表 3-1 ツールバーのボタン











	トポロジ内で 1 レベル上に移動します。
	現在の操作を停止します。
	アクティブなビューをリフレッシュします。
	選択した行をシステムのクリップボードにコピーします。
	属性ビューア内で前に進みます。
	属性ビューア内で後に戻ります。
	機器の属性ビューの内容を保存します。
	属性ビューに新規の行を追加します。
	選択した項目を削除します。
	デフォルトではテーブル内のすべての行が選択されますが、このセルモード トグル ボタンを使用することで単一セルを容易に選択できます。

図 3-2 および図 3-3 に、ツールバーの移動方法とロックの方法をそれぞれ示します。

図 3-2 ツールバーの移動

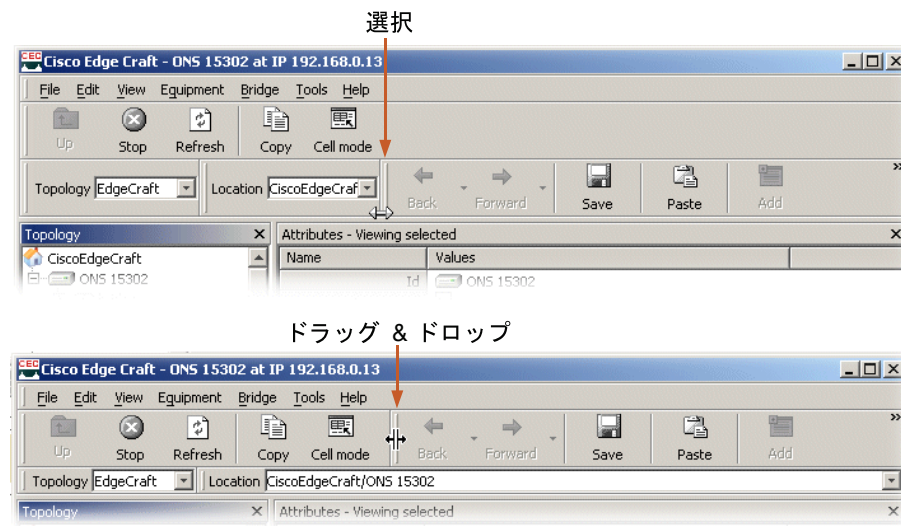
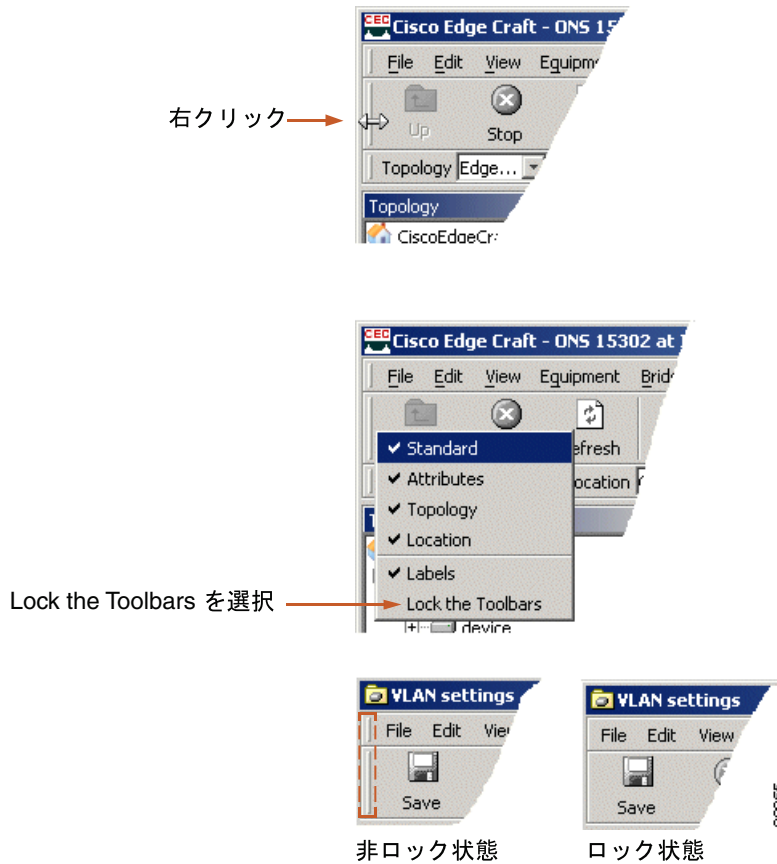


図 3-3 ツールバーのロック



3.1.2 メニュー項目

ここでは、さまざまなメニュー項目について説明します。

3.1.2.1 File

図 3-4 および表 3-2 に、File メニューの機能を示します。

図 3-4 File のプルダウンメニュー

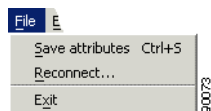


表 3-2 File メニュー

メニュー項目	アクション
Save	内容を保存します。
Reconnect	機器に再接続します。
Exit	Cisco Edge Craft を終了します。

3.1 Cisco Edge Craft デスクトップ

3.1.2.2 Edit

図 3-5 および表 3-3 に、**Edit** メニューの機能を示します。

図 3-5 Edit のプルダウンメニュー

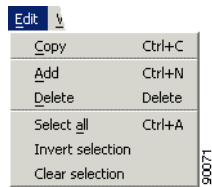


表 3-3 Edit メニュー

メニュー項目	アクション
Copy	選択した項目をシステムのクリップボードにコピーします。
Paste	コピーされた内容をペーストします。
Add	行を追加します。
Delete	選択した項目を削除します。
Select all	アクティブなビュー内のアクティブなすべての項目を選択します。
Invert selection	アクティブなビュー内の現在の選択を解除します。
Clear selection	現在の選択をクリアします。

3.1.2.3 View

図 3-6 および表 3-4 に、**View** メニューの機能を示します。

図 3-6 View のプルダウンメニュー

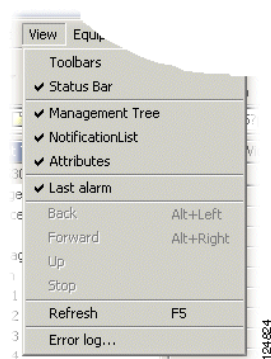


表 3-4 View メニュー

メニュー項目	アクション
Toolbars	Standard : チェックを付けると、標準ツールバーがアクティブになります。 Attributes : チェックを付けると、属性ツールバーがアクティブになります。 Labels : チェックを付けると、ラベルがツール ボタンに表示されます。
Status bar	チェックを付けると、Cisco Edge Craft デスクトップの下部にステータスバーを表示します。
Alarm Display	チェックを付けると、アラーム表示がデスクトップ上のアクティブ アプリケーションになります。
Management Tree	チェックを付けると、管理ツリーがデスクトップ上のアクティブ アプリケーションになります。
Attributes	チェックを付けると、属性ビューアがデスクトップ上のアクティブ アプリケーションになります。
Columns	アラーム表示で表示できるカラムを切り替えます。詳細については、「 表示可能なカラム 」(P.3-16) を参照してください。
Last Alarm	チェックを付けると、最後のアラームをアラーム表示の別のウィンドウで表示します。
Back	後に戻ります。
Forward	先に進みます。
Up	1 レベル上に移動します。
Stop	現在の操作を停止します。
Refresh	アクティブなビューをリフレッシュします。
Error Log	エラー ログを開きます。 ログは、ステータスバーからも使用できます。 記号は、ステータスバーでの重大度を示します。ログを表示するには、現在の記号をダブルクリックします。

3.1.2.4 Equipment

図 3-7 および表 3-5 に、Equipment メニューの機能を示します。

図 3-7 Equipment のプルダウン メニュー

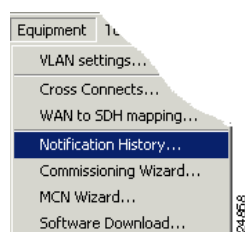


表 3-5 Equipment メニュー

メニュー項目	アクション
VLAN Settings	VLAN 設定 GUI を開きます。 VLAN 設定の詳細については、7.4 「VLAN のプロビジョニング」(P.7-15) を参照してください。
Cross Connect	相互接続 GUI を開きます。 相互接続の詳細については、5.6 「ONS 15305 SDH 相互接続管理」(P.5-19) を参照してください。
WAN to SDH mapping	WAN から SDH へのマッピング GUI を開きます。 詳細については、5.15.3 「WAN ポート初期容量の追加」(P.5-61) を参照してください。
Notification History	通知履歴 GUI を開きます。 「履歴」(P.3-12) を参照してください。

3.1.2.5 Tools

図 3-8 および表 3-6 に、Tools メニューの機能を示します。

図 3-8 Tools のプルダウンメニュー



表 3-6 Tools メニュー

メニュー項目	アクション
VT 100 Terminal	設定すると、VT100 端末が起動します。 詳細については、1.1.6 「VT100 端末の設定」(P.1-16) を参照してください。
Text Editor	テキストエディタを開きます。

3.1.2.6 Help

図 3-9 および表 3-7 に、Help メニューの機能を示します。

図 3-9 Help のプルダウンメニュー

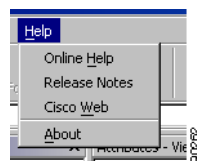
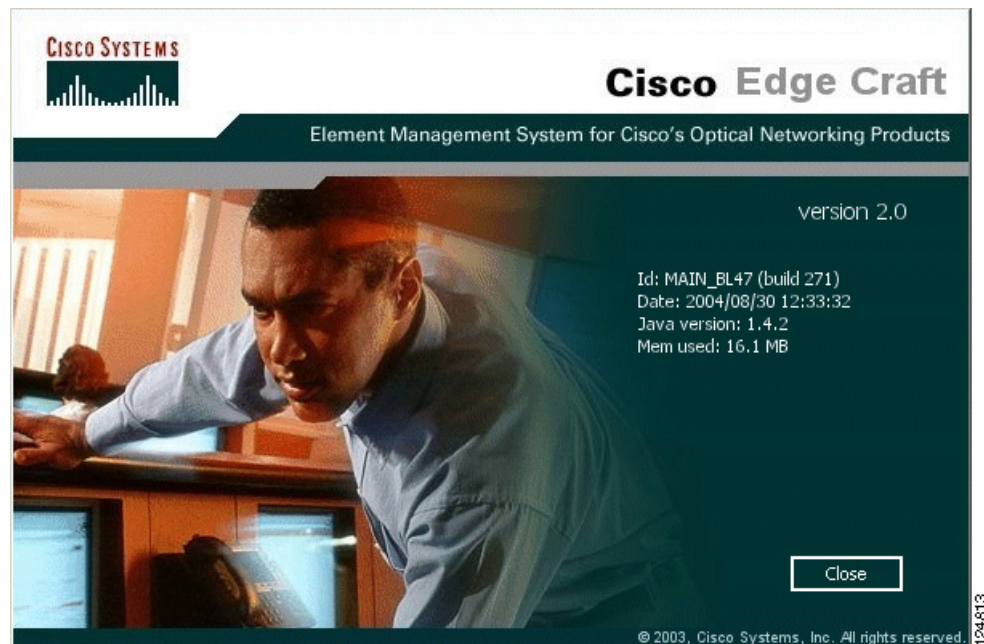


表 3-7 Help メニュー

メニュー項目	アクション
Online Help	オンライン マニュアルの『Cisco Edge Craft User Guide』を表示します。
About	インストールされている Cisco Edge Craft ソフトウェアの情報を表示します (図 3-10 参照)。

図 3-10 About ボックス - 例








3.1.2.7 ログ ビューア

表 3-7 に、ログ ビューアのアイコンを示します。

次の記号 (アイコン) に関連したメッセージがログに格納されていると、その重大度がステータスバーに示されます。

表 3-8 ログ ビューアのアイコン

	エラーメッセージが出されています。
	警告メッセージが出されています。
	情報があります。
	マップされていない重大度の情報があります。
	このアイコンが表示されている場合は、追加情報があります。

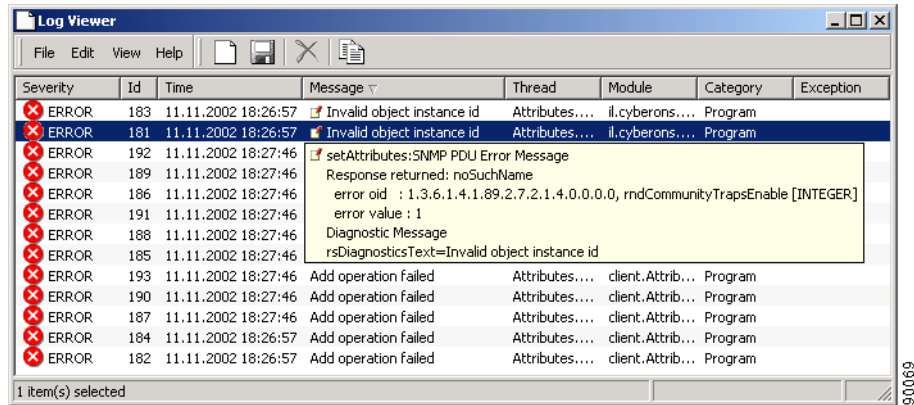
3.1 Cisco Edge Craft デスクトップ

ステップ 1 ログを表示するには、現在のアイコンをダブルクリックします。

ステップ 2 注記アイコンのマークが付けられたメッセージには追加情報があるので、注記アイコンをクリックして、ハイパーリンクを表示します。

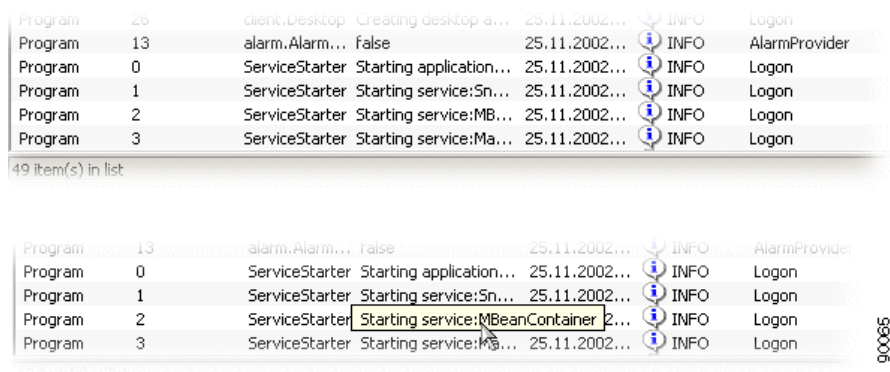
図 3-11 および図 3-12 に、ログ ビューアの機能を示します。

図 3-11 ログ ビューア



セル内に表示されている値の一部が隠れている場合は、ツール ヒントで全体の値が表示されます。

図 3-12 ログ ビューア - ツール ヒント



3.1.3 コピー アンド ペースト

テーブル エントリの編集をサポートするすべての Cisco Edge Craft アプリケーションには、コピー アンド ペースト機能があります。Cisco Edge Craft は、ペーストするときに、選択されたカラムのデータ タイプがコピー元のセルと同じであるかどうかを検証します。同じでない場合は、カラム名に基づいてデータをコピーするかどうかを問い合せてきます。その後、名前とデータ タイプが同じ編集可能なカラムだけがペーストされます。これにより、データが同じでもカラムの順序が異なるテーブル間でコピー アンド ペーストが可能になります (図 3-13 参照)。

図 3-13 コピー アンド ペーストの例

Id	MoClass	Severity	AlarmId	Description
device		critical	ufail	device main unit failure
device		major	temp	high temperature alarm
fan		major	fan	fan failure
power		critical	pwrInA	power failure input A
power		critical	pwrInB	power failure input B
power		critical	pwrOut	power output failure
slot		critical	modMis	module mismatch

3.1.4 セル選択モード

デフォルトでは、テーブル内のすべての行が選択されますが、セルモード トグル ボタンを使用して単一セルを容易に選択できます。

この機能では、1 つのテーブル セルをコピーして、カラム全体を選択し、Paste をクリックして、値を選択されたすべてのセルにコピーできます。範囲によるコピー アンド ペーストもサポートしています。したがって、値 A および B をコピーして大きな範囲にペーストして、値 A および B を範囲全体に繰り返して設定することができます。

外部アプリケーション (Microsoft Excel など) にコピー アンド ペーストします。

3.1.5 キーボードを使用したテーブル内の移動

フォーカスされたセルは容易に見分けることができ、矢印キーを使用してカーソルを移動できます (編集可能なテーブルにだけ適用)。選択したセルの編集は、**Enter** キーまたは **F2** キーを使用して容易にできます。次の編集可能なセルに移動するには、**Tab** キーを使用します (左から右、および上から下)。選択は循環します。つまり、最後の行の最後の編集可能なセルに達すると、最初の行の最初の編集可能なセルがアクティブになります。

テーブルの最初の編集可能セルに移動するには、ウィンドウをアクティブにして、**Tab** キーを 2 回押します。

3.1.6 カラム幅の自動合わせ

カラム ヘッダーのサイズ変更域をダブルクリックするとカラムのサイズが変更されて、カラム内にすべての値を表示できます。デフォルトでは、カラム名はこの対象ではありませんが、**Shift** キーを押したままダブルクリックすると対象になります。

3.2 管理ツリー

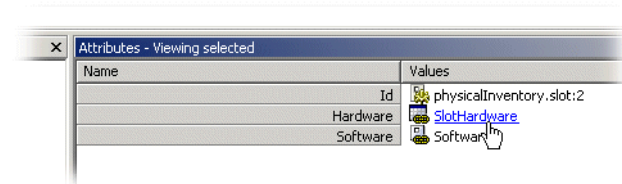
管理ツリーには、現在のネットワーク要素の管理対象エンティティ（たとえば、LAN ポート、VLAN、ブリッジ）の階層が表示されます。オペレータは、階層全体の表示、またはいずれかの定義済みビューを使用して特定のタイプの管理対象エンティティだけを表示できます（たとえば、LAN ポートだけを表示）。管理ツリー内の項目が選択されると常に、属性ビューにその子オブジェクトが表示されます。

図 3-1 に示されている管理ツリー内のデバイス ホルダーをクリックすると、すべてのアラーム ポート、補助ポート、および管理ポートが表示されます。**alarmport:1** をクリックすると、その特定のポートの属性が表示されます。太字で示されている属性は編集可能であり、テーブル内で直接、またはカスタム ユーザ インターフェイスを使用して編集できます。

管理ツリーを使用するさまざまな設定タスクを、以降の章で詳しく説明します。

管理ツリーと属性ペインの組み合わせは、Windows のエクスプローラでファイル システム内のファイルを表示するのと同じように、ネットワーク要素の内容を表示します。

図 3-14 編集可能なタイプとテーブル - ハイパーリンク



編集可能な複合タイプおよびテーブルへのリンクはすべて、ハイパーリンクとして表示されます（図 3-14 参照）。

属性値を変更することで、すべての必要な設定を変更できますが、ウィザードまたはカスタム ユーザ インターフェイスを使用すると、さらに複雑な設定を行うことができます。

3.2.1 新規ウィンドウでリンクを開く

管理対象オブジェクトを選択し、右クリックして **Open in new window** を選択すると、新しい属性ビューが開いて選択した管理対象オブジェクトが表示されます。この属性ビューで、異なる管理対象オブジェクトの値を容易に比較できます。

3.3 アラームの表示

アラームの表示目的は、現在のアラームとイベント通知を表示することです。

ここでは、すべてのアラーム履歴も表示されます。ネットワーク要素内の履歴リストはクリアできます。アラームは、ネットワーク要素の障害を報告します。アラームには、クリアできるものとできないものがあります。持続期間のあるアラームは、そのうちにクリアできます。イベントは、ネットワーク要素の障害以外の状態を報告します。イベントには、ステータスがあります (図 3-1 参照)。

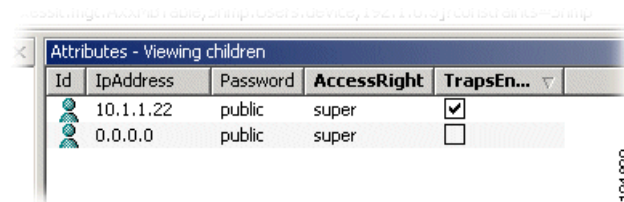
3.3.1 現在のアラームの表示

現在のアラームを表示するには、次の手順に従います。

3.3.1.1 アラームのサブスクリプション

- ステップ 1 対象のネットワーク要素にログインします (「ネットワーク要素への接続のセットアップ」の項を参照)。
- ステップ 2 ネットワーク要素からのアラームおよびイベントのサブスクライバを Cisco Edge Craft に手動で登録する必要があります。登録するには、**device > users > snmp > TrapsEnable** 属性を **trapsEnable** に設定します (図 3-15 参照)。

図 3-15 TrapsEnable 属性の設定



- ステップ 3 **Save** をクリックします。
- ステップ 4 登録が完了すると、Cisco Edge Craft はネットワーク要素をポーリングしてすべての現在のアラームを検出し、Cisco Edge Craft の IP アドレスへ向けてアラームおよびイベントの送信を開始します。

SNMP トラップが Cisco Edge Craft 内の通知にマップされます。マッピングの方針については、[3.3.3 「通知」 \(P.3-18\)](#) を参照してください。

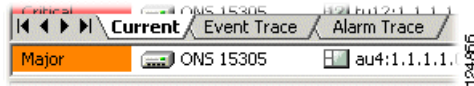
現在のアラーム通知の一覧を表示するには、通知リストから現在のアラームを選択します。

3.3 アラームの表示

3.3.1.1.1 アラームの表示

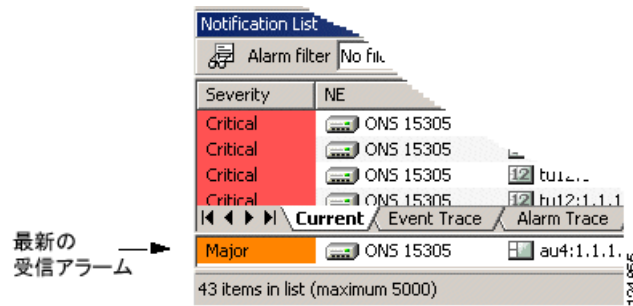
現在のアラームを表示するには、**Current** タブをクリックします (図 3-16 参照)。

図 3-16 Current タブ - アラーム リスト



最新のアラームが、アラーム リストの下部に表示されます (図 3-17 参照)。

図 3-17 最新のアラーム



リフレッシュ

アラーム リストを更新するには、ツールバーの **Refresh** をクリックします。

履歴

ネットワーク要素の最後の再起動またはネットワーク要素内の履歴リストの最後のクリア以降の、ネットワーク要素について報告されたすべてのアラーム通知のリストを取得するには、次のようにします。

通知リスト内の **History** を選択して、ネットワーク要素が最後に再起動された以降の、またはネットワーク要素内の履歴リストが最後にクリアされた以降の、ネットワーク要素について報告されたすべてのアラーム通知のリストを取得します。

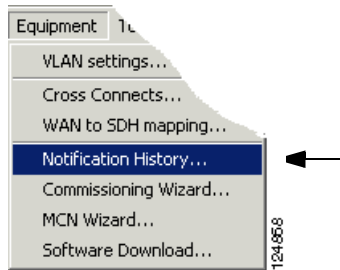
Cisco Edge Craft でネットワーク要素からアラーム履歴を収集するには、明示的にリフレッシュする必要があります。これは、リフレッシュを行う時点までロードされない状態が続いていて、通知リストが空になっていることもあるからです。

ネットワーク要素上の履歴ログは、デバイスのログ管理属性に対してアクションを実行することでクリアできます。4.5 「共通パラメータの管理」(P.4-25) を参照してください。

ステップ 1 **Equipment** メニューで **Notification History** を選択します (図 3-18 参照)。

ステップ 2 **Refresh** を選択します。

図 3-18 Notification History

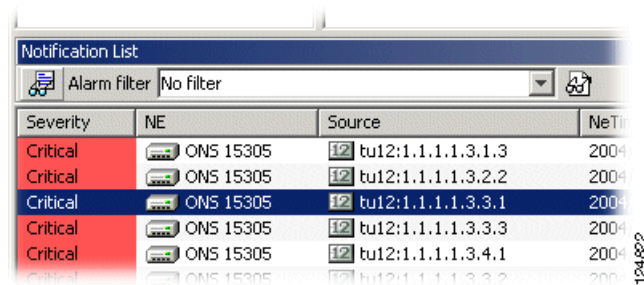


3.3.1.2 アラームの選択

単一選択

対象とする単一のアラームをクリックします (図 3-19 参照)。

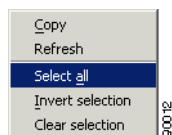
図 3-19 単一アラームの選択



複数選択

ステップ 1 右クリックして **Select all** を選択します (すべてを選択する場合) (図 3-20 参照)。

図 3-20 すべてのアラームの選択



または

連続する範囲の最初のアラームをクリックし、**Shift** キーを押したままで対象範囲の最後のアラームをクリックします (リスト上で連続しているアラームをまとめて選択する場合) (図 3-21 参照)。

図 3-21 アラームの選択 - 連続範囲

Severity	NE	Source	NeTime
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.1.3	2004/08
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.2.2	2004/08
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.3.1	2004/08
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.3.3	2004/08
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.4.1	2004/08
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.3.2	2004/08
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.2.3	2004/08

次の指定も有効です。

最初のアラームをクリックし、**Ctrl** キーを押したままで複数の対象アラームをクリックして選択します（リスト上で連続していないアラームをまとめて選択する場合）（図 3-22 参照）。

図 3-22 アラームの選択 - 連続しない範囲

Severity	NE	Source	NeTime
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.1.3	2004/08
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.2.2	2004/08
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.3.1	2004/08
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.3.3	2004/08
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.4.1	2004/08
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.3.2	2004/08
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.2.3	2004/08
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.2.1	2004/08
Critical	ONS 15305	tu12:1.1.1.1.3.1.2	2004/08

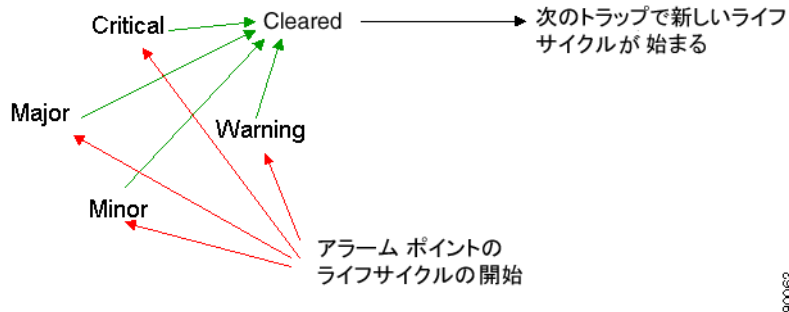
Invert selection または **Clear selection** を選択することもできます。

アラームのコピー

- ステップ 1 対象のアラームを選択します。
- ステップ 2 **Copy** をクリックします。
- ステップ 3 クリップボードにコピーされた選択内容を、他のアプリケーション（たとえば、メモ帳）にペーストします。

3.3.1.3 アラームのライフサイクル

図 3-23 アラーム ポイントのライフサイクル



通知リストには、各アラーム ポイントがそれぞれ 1 行で、つまりアラームの発生元とアラーム ID の組み合わせで表示されます。アラームがまだクリアされていないときに同じアラーム ポイントから新たなアラーム通知があると、その新たなアラームの重要度と新たなタイムスタンプで同じ行が更新されます。同じアラーム ポイントで別アラームのライフサイクルが新たに開始すると、新たな行が作成されます (図 3-23 参照)。新たなアラーム通知があるたびに、ある重大度から別の重大度へ移行したり、重大度がクリアされたり (ライフサイクルの終了) することがあります。

ユーザがトラップ受信側としての登録を解除している場合、トラップは Cisco Edge Craft の IP アドレスに送信されません。

3.3.2 ネットワーク要素から報告されたイベントの表示

現在のイベント

ネットワーク要素から報告された現在のイベントを表示するには、通知リストから **Event Trace** を選択します (図 3-24 および図 3-25 参照)。

図 3-24 イベントの選択



図 3-25 現在のイベント

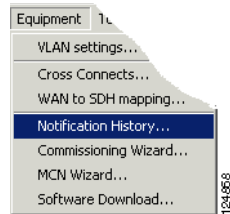
Id	Moid	Description	EventType
985	mgmtPort	Link Up	equip
986	dccR:1.1.1	Link Down	equip
987	dccM:1.1.2	Link Down	equip
988	dccR:1.2.1	Link Down	equip
989	dccM:1.2.2	Link Down	equip
990	dccR:1.3.1	Link Down	equip
991	dccM:1.3.2	Link Down	equip

3.3 アラームの表示

イベント履歴

Equipment メニューから **Notification History** を選択し、**Event** タブをクリックしてイベント履歴を表示します (図 3-26 参照)。

図 3-26 イベント履歴



イベント通知の属性の詳細については、表 3-9 (P.3-19) を参照してください。

表示可能なカラム

アラーム表示では、表示するカラムを指定できます。

ステップ 1 **View > Columns** を選択します。

ステップ 2 対象とするカラムのチェックを外すと、そのカラムはアラーム表示に表示されません。

図 3-27 に、現在のアラームおよびアラームの履歴が表示されている様子を示します。

図 3-28 に、イベントおよびイベントの履歴が表示されている様子を示します。

図 3-27 表示可能なカラムの例 1

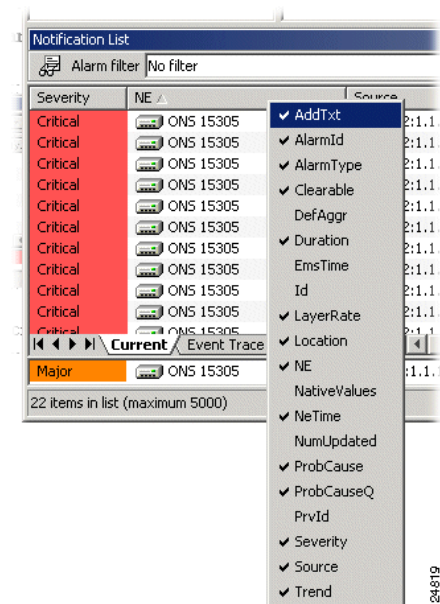


図 3-28 表示可能なカラムの例 2



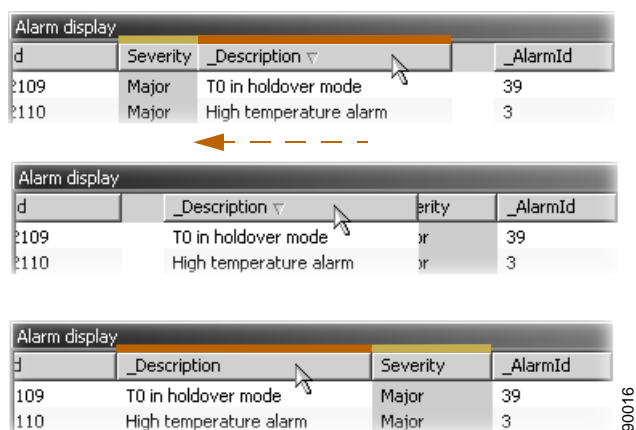
カラムの順序変更

選択したカラムの順序は、容易に変更できます (図 3-29 参照)。

ステップ 1 対象とするカラムのヘッダーをクリックします。

ステップ 2 カラムを新たな位置にドラッグします。

図 3-29 カラムの順序変更



カラムのサイズ変更

ステップ 1 対象とするカラムのヘッダーの右にマウス ポインタを置きます。マウス ポインタが二重矢印に変わります (図 3-30 参照)。

ステップ 2 クリックして、適切なカラム サイズの位置までドラッグします。

3.3 アラームの表示

図 3-30 カラムのサイズ変更

Figure 3-30 shows two screenshots of the 'Alarm display' table. The top screenshot shows the table with columns: NeTime, Moid, AlarmId, and Clear. The bottom screenshot shows the same table with an additional 'Severity' column highlighted in yellow. The data rows are identical in both screenshots.

NeTime	Moid	AlarmId	Clear
25.11.2002...	vc12:2.9.1...	1.1.19	true
25.11.2002...	vc12:2.9.1...	1.1.19	true
25.11.2002...	vc12:2.9.1...	1.1.19	true
25.11.2002...	vc12:2.9.1...	1.1.19	true
25.11.2002...	vc12:2.9.1...	1.1.19	true
25.11.2002...	vc12:2.9.1...	1.1.19	true

NeTime	Moid	Severity	AlarmId	Clear
25.11.2002...	vc12:2.9.1...	Minor	1.1.19	true
25.11.2002...	vc12:2.9.1...	Minor	1.1.19	true
25.11.2002...	vc12:2.9.1...	Minor	1.1.19	true
25.11.2002...	vc12:2.9.1...	Minor	1.1.19	true
25.11.2002...	vc12:2.9.1...	Minor	1.1.19	true
25.11.2002...	vc12:2.9.1...	Minor	1.1.19	true

カラムのソート

ステップ 1 目的のカラムをクリックして、昇順にソートします (図 3-31 参照)。

ステップ 2 再度クリックして、降順にソートします。

図 3-31 カラムのソート

Figure 3-31 illustrates the process of sorting the 'Severity' column. It shows three stages: 1) The 'Severity' column header is clicked. 2) The column is sorted in ascending order, showing 'Major', 'Major', 'Major', and 'Critical'. 3) The column is sorted in descending order, showing 'Critical', 'Major', 'Major', and 'Major'.

3.3.3 通知

Cisco Edge Craft でサポートされる属性を持つ通知のタイプは、次のとおりです。

- 現在のアラーム通知 (表 3-9 参照)。
- イベント トレース通知 (表 3-10 参照)。
- アラーム トレース通知

通知のタイプ

表 3-9 通知のタイプ

属性		
名前	説明	有効な値
AckSign	確認応答シグニチャ	ユーザ ID (自動)
AckTime	確認応答時刻	yyyy/mm/dd hh:mm:ss (サーバ時刻)
Acked	アラームを確認応答する場合にチェックを付ける	チェック済み / チェック解除
AddTxt	追加テキスト (自由形式のテキスト記述)	
AlarmId	アラームの固有 ID	
AlarmType	グループ化されたアラーム カテゴリ	equip(-ment)、env(-ironment)、comm(-unication)、process
Clearable	アラームがクリア可能かどうかを指定するブール値。一部のアラームは持続しないので、クリア重大度はありません。	チェック済み / チェック解除
Comment	アラームに手動で追加したコメントテキスト	テキスト (最新だけ) (履歴ログに表示)
DefAggr	—	
Duration	持続期間: アラームを受信してからクリアするまで	hh:mm:ss
Ems Time	アラームを受信したときに Cisco Edge Craft によって設定されたタイムスタンプ	yyyy/mm/dd hh:mm:ss (サーバ時刻)
Id	アラームを識別する固有のシーケンス番号	
Layer rate	管理対象オブジェクトが使用するレイヤレート (適用可能な場合)	適用不可 (ネットワーク要素でサポートされる他のすべてのレイヤレート)。マップ ビューアおよびマップ デザイナを参照
Location		
NE	ネットワーク要素の ID	
NativeValues	マップされないトラップ データ	(有効な値はネットワーク要素により異なる)
NeTime	ネットワーク要素からのタイムスタンプ (適用可能な場合)	yyyy/mm/dd hh:mm:ss
NumUpdated	当該アラーム ポイント (ソースおよびアラーム ID により定義) から行われたアラームの更新回数	数 (1 ~ n)
ProbCause	アラームの推定原因	(有効な値はネットワーク要素により異なる)
ProbCauseQ	推定原因だけでは正確なエラーおよび発生元を決定するのに十分でない場合の、推定原因修飾子	(有効な値はネットワーク要素により異なる)

表 3-9 通知のタイプ (続き)

属性		有効な値
名前	説明	
PrvId	通知の以前の ID	シーケンス番号
Severity	アラームの重大度	クリティカル、メジャー、マイナー、警告、クリア、未定
Source	アラームの発生元を含むネットワーク要素の ID	管理ツリーで使用できるすべての管理対象オブジェクト
Trend	重大度の変化傾向	変化なし、重大度低下、重大度上昇

イベント通知

表 3-10 イベント通知

属性		有効な値
名前	内容	
AddTxt	イベントを説明する追加テキスト	
Description	追加テキスト	
Ems Time	アラームを受信したときに Cisco Edge Craft によって設定されたタイムスタンプ	yyyy/mm/dd hh:mm:ss (サーバ時刻)
EventId	イベントの固有 ID	
EventType	グループ化されたイベント カテゴリ	equip(-ment)、env(-ironment)、comm(-unication)、process
Id	イベントを識別する固有のシーケンス番号	
Moid	イベントの発生元を含むネットワーク要素の ID	機器の情報モデル内の A M.O
Native Values	マップされないトラップ データ	(有効な値はネットワーク要素により異なる)
NE	ネットワーク要素の ID	
NeTime	ネットワーク要素からのタイムスタンプ (適用可能な場合)	yyyy/mm/dd hh:mm:ss

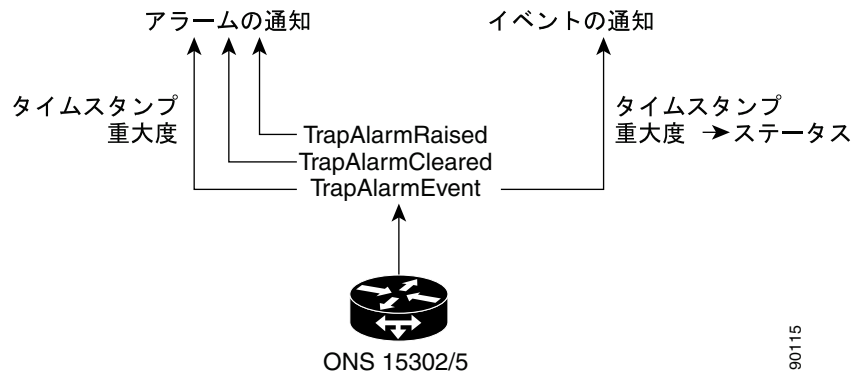
アラーム通知の重大度

アラーム通知の重大度は、ネットワーク要素から報告されるか、または通知マッピングに定義されている必要があります。

通知へのトラップのマッピング

アラームおよびイベントの解釈は、ネットワーク要素と Cisco Edge Craft で少し異なります。SNMP トラップに適用されるマッピング ルールを [図 3-32](#) に示します。

図 3-32 通知へのトラップのマッピング



アラーム通知には、TrapAlarmRaised および TrapAlarmCleared トラップがマップされています。ここでは、トラップのタイムスタンプが重大度と一緒に使用されます。ONS 15305 および ONS 15302 では、トラップ内に重大度が示されています。この重大度が通知で使用されます。

アラーム通知の 1 つの属性に clearable と呼ばれる属性があります。この属性が true に設定されていると、管理システムではこのアラームがいずれは TrapAlarmCleared になるものとして処理します。

ネットワーク要素のエラー障害を示す TrapAlarmEvent トラップは、clearable 属性の設定が false のアラーム通知にマップされます。トラップで示された重大度およびタイムスタンプがアラーム通知で使用されます。

他の TrapAlarmEvents はイベント通知にマップされます。これらには重大度はありませんが、イベントのタイプを定義するステータス（情報、確認など）があります。トラップ内の重大度は、イベント通知内のステータスとして使用されることがあります。

不明なトラップ

Cisco Edge Craft が受信するトラップの中にはどの通知タイプにもマッピングできないものもありますが、そのような場合でも、通知は生成されます。この通知には、そのトラップで受信した情報がそのままのかたちですべて含まれています。

■ 3.3 アラームの表示